

令和元年10月4日 校長 高倉 満

□前回の「校長かわら版 No25」で集団に目を向けて生徒同士の横のつながりを強めようと書きました。だからこそ私たちが「つながりを育てる集団づくり」をどう進めていくのかが大切です。大阪府松原市立布忍小学校の取組が紹介されていたので、書きます。何か参考になればと思います。(一部抜粋)

## ①子どもの「よさ」に依拠する集団づくり

子どもを取り巻く世の中は課題に満ちている。社会には他者を切り捨てたり、他人をバカにして満足するような考えも蔓延している。個々の児童の家庭内にも、複雑な人間関係や経済面での課題などが存在している。子どもたちは、社会の空気を吸い、良いものも悪いものも取り込んで、一定の価値観を持って、集団の中で登場してくる。それが児童の集団の素の実態である。布忍小学校の「集団づくり」は、そんな実態を客観的にとことん見つめることから始まる。

「よさ」に依拠する集団づくりの焦点となるのは、「よさ」が表に現れにくい児童である。隠れているその児童の「よさ」を見いだすためには、集団の中で人を傷つけたり、勝手な行動をしたりしてしまう児童に対して、その児童が何故そのような行動をしてしまうのかを探るとともに、そんな現れをする児童の中に眠っている人間性を信じ、揺り起こすことである。したがって児童の「よさ」に依拠した指導とは、表面だけを見て心にもないほめ言葉を言ったり、間違っただけに対して叱りもせずに見過ごすことではない。本気で子どもと向き合い、表面からは見えないその子固有の本質を捉え、嘘のない言葉で間髪をいれず、その子に伝えることが大切である。なかなかその子の「よさ」が見えにくい子どもについても、隠れた人間性、奥深いところにあるその子の資質を信じ、小さなことであっても、その「よさ」が垣間見えた一瞬を宝物のように大切に、集団の中に引き出し、位置づけ、その子を含む集団の人間観や価値観をも転換しようとする試みが「よさ」に依拠する集団づくりである。

## ②教職員の集団づくり

集団づくりを進めていくとき、向き合っている教職員自身も自分の価値観が問われる。時には、人生観や生き方も問われることがある。集団づくりにマニュアルはない。経験を積んだからといって必ずしも上手くいくとは限らない。集団づくりは常に価値観とのたたかいであり、数々の困難を伴う。しかし、子どもたちの「つながり」がよいものになっていったとき、特にその質的転換の瞬間には、教師冥利につける喜びを味わう。苦労の日々が百日続いて、一瞬の場面でその苦労は消え去り、大きな喜びで満たされる。だが、そこに至るまでの道のりは一人ではなかなか背負いきれないことも多い。だから、児童の集団づくりと同様に、「教師の集団づくり」を大切にする。教職員のチームワーク、支え合う教職員集団こそが本校教育を土台から支えることができる。

日々の悩みを一人で抱え込むのではなく、日々の指導を軸として教職員どうしが、お互いに信じ合い、迫り合うことができる教職員集団があってこそ、子どもたちの集団づくりは在る。「つながり」こそが「つながり」を育てられるからだ。

□今、合唱の練習も中盤を迎えています。クラスの子どもたちの表情はどうでしょうか。生き生きと練習に取り組み、練習で感じた課題を共有し合い、お互いで指摘し合い、さらに良いものを作り上げようとしていますか。合唱の練習を通して「ぬくもり」のあるつながりを生み出していきたいでしょう。

練習の中で見える子どもの良さを誉めてください。お願いします。

### □小中合同研 小教研への参加に向けて

10月10日(木) 小教研 各会場

- 小学生の学ぶ姿はどうか。学習規律七か条の積み上げは。
- ICTの活用、協働学習、グループ学習、ペア学習等の工夫は。
- ねらいは明確か、発問や交流の工夫は。
- 板書の工夫は。「めあて」と「まとめ」のつながりは。
- 中学校との共通点は。教師の発問は。書く活動は。
- 小中のつながりは。9年間を見通した視点は。
- 協議の進め方は。

・前向きな意見を出していきましょう。小学校の先生方が中学校の授業を見て参考になったように、私たちも小学校の先生方の授業から学ぶものは必ずあると思います。有意義な時間にしましょう。

